

「年賀状 こう売れば？」

愛教大 学生が販促方法 提案

愛知教育大（刈谷市）の学生たちが年賀状の販売促進のために考えた企画を発表するプレゼンテーション大会が二十八日、同大であった。

教員志望の学生たちが問題解決のための企画力、提案力を養う授業の一環で、これまでも「三河一色えびせんべいのPR法」や

「若者が新聞を購読するには」など毎年テーマを変えて実施。二年生三十四人が半年かけ、調査、研究してきた販促のための方策をグループに分かれて披露した。

「会員制交流サイト（SNS）の普及」や「書くのが面倒」など年賀状の発行枚数が減少してきた理由を分析



年賀状の販促方法を発表する学生たち＝刈谷市の愛知教育大で

した上で、神社と連携「祈願を送る」念賀状として絵馬のように合格や、誰でもオリジナル

の絵はがきを描けるような画材を入れたセツトの開発など学生らしい発想が飛び出した。

発表を聞いた刈谷郵便局の宮森晃一局長は「みなさんの発表を参考にしていき、日本にしかない文化を継続させたい」、指導する美術教育講座の富山祥瑞教授は「年賀状を書かない学生だったが、切り口がすべて異なり面白かった」と評価していた。

（土屋晴康）